



塚本 楓花 さん

闘志あふれる司令塔

PROFILE

つかもと ふうか(15・桜ヶ池)
浜岡中学3年生。ソフトボール部に所属し、副部長を務める。ポジションはキャッチャーで一番打者。俊足を生かした走塁が持ち味。

白球を追い続けて

「ファースト次来るよ!セカンドもつと前、足動かしで!声出していくよ!」
キャッチャーを務める塚本楓花さんの、元気な掛け声がグラウンド中に響く。

父と兄の影響で、幼い時から野球観戦やキャッチボールが好きだった。「いつも身近に野球があり、自然と一緒にやっていた」という彼女は、小学2年生の時にスポーツ少年団に入団。練習から帰っても自主練習を欠かさず、野球漬けの日々に汗を流した。

中学入学後は、迷わずソフトボール部へ入部。「走り込みやキャッチボールなどの基礎練習は、なかなか成果が目に見えず、モチベーションの維持が難しい。その分、いいプレーができた時は、うれしい気持ちとともに基礎の大切さを実感する」と笑顔で語る。

挑戦の先に見えたもの

2年生の夏、先輩の引退後は肩の強さからキャッチャーを任せられ、さらに静岡県選抜選手の選考会に挑むことになった。「不安はあったけれど、挑戦しているうちに大舞台で戦いたいと強く思うようになった」と話す楓花さんは、選考会を突破し、参加者240人の中から見事17人の県選抜選手に選ばれた。

3月27日から29日に福岡県で開催された「第11回都道府県対抗全日本中学生女子ソフトボール大会」。静岡県は惜しくも1回戦で敗退し、楓花さんは試合に出ることはできなかった。「試合はものすごい迫力だった。レギュラー選手の動きに圧倒された」という楓花さん。「出場できなかったのは悔しいけれど、選抜で得た経験を部員に伝え、練習に生かしている」と話すまなざしは力強かった。

感謝を胸に全力プレー

「父は今でも練習に付き合ってくれる。家族やチームメイトに感謝してプレーしたい」と話す楓花さんは、受験生でもある。「中学最後の夏、部の目標は県制覇。でも、大きな目標の前に、まずは目の前の相手と全力で戦いたい」と意気込みを語る。
笑顔と元気を力に変え、さらなる活躍に期待したい。